

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01642

研究課題名(和文) 知識基盤社会におけるポストCAP-STEM型大学教授職に関する国際比較研究

研究課題名(英文) International Comparative Study of the Post CAP-STEM Type Academic Profession in Knowledge Based Society

研究代表者

有本章 (Arimoto, Akira)

広島大学・高等教育研究開発センター・名誉教授

研究者番号：00030437

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本の大学教員を対象として2017年に実施したアンケート調査データを使って、大学教員の社会サービス活動の特徴を分析した結果、3点が明らかになった。

1週間のうちに社会サービス活動に費やす時間は、0時間から65時間と幅が広く、平均時間数は約3時間であった。活動頻度の高いものは、「講演」「共同研究や共同出版」「外部委員会への参加」であった。社会サービス活動時間数が高い大学教員の特徴は、男性、50歳代以上、「社会科学系」「農学系」「医学・健康科学系」であり、彼らの所属組織の特徴は、「リーダーシップが発揮されている」「機関の使命が重視されている」「同僚制で意思決定がなされている」、であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の大学教員の主な専門的活動は、研究活動と教育活動であり、社会サービス活動は多くの大学教員にとってマイナーな活動である(平均1週間に3時間程度)。その中でも、主な社会サービス活動は、「講演」「共同研究や共同出版」「外部委員会への参加」であった。

社会サービス活動時間数が高い大学教員について調べたところ、50歳代以上のシニア男性教員で、専門分野は、社会科学系、農学系、医学・健康科学系であった。なお日本の大学教員の社会サービス活動が国際的に低調なことは、大学が社会との協力関係や国際化推進などの点でいまだ積極的段階を実現していない証左であるから、今後の大学改革や大学教員の意識改革を喚起する。

研究成果の概要(英文)： Using data from a 2017 survey of Japanese academic profession, we analyzed the characteristics of university academic profession's social service activities and found three points.

The amount of time spent on social service activities per week varied widely, from 0 hours to 65 hours, with the average number of hours being approximately 3 hours. The most frequent activities were "lectures," "joint research and publication," and "participation in external committees." The characteristics of academic profession who spend a lot of time engaged in social service activities are male, over 50 years old, and in the social sciences, agricultural sciences, and medicine/health sciences and the characteristics of their organizations were "there are competent leadership", "the organization's mission is emphasized" and "decisions are made through a collegial system".

研究分野：教育社会学

キーワード：大学教員 社会サービス活動 講演 共同研究 外部委員会

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

知識基盤社会 = knowledge-based society (以下、知識社会と略) は、中央教育審議会答申(2005)によって「知識には国境がなく、グローバル化が一層進む」などと定義されて以来重要性が高まった。その中で本研究課題の核心は、世界規模で CAP-STEM 型の水準まで到達した AP 像の先行研究を批判的かつ発展的に継承し、ポスト型 AP の方向性を論究することである。

AP 研究は概略して、①カーネギー調査(1992)以前、②以後、③CAP 調査(2007)以後、の 3 期に区分できる。研究代表者有本(以下、代表者)はこれら全先行研究に日本代表として参画し、今日の研究課題の不可欠性を確信した。①期(1940~80 年代)では、L.Wilson, T.Caplow=R.McGee, 新堀, B.Clark などが先鞭をつけ、②期(1990~2006)でのカーネギー調査の成果は P.Altbach や有本・江原の編著が内外で著名。③期(2007~現在)での CAP 調査の成果は Springer 社の Changing Academy Series にて U.Teichler, A.Arimoto, W.Cummings を中心に合計 26 巻刊行。代表者は Cummings と共に Series Editor の重責を担った(巻末業績参照)。

②③の時期の AP 研究は、B.Clark, P.Altbach, M.Finkelstein, W.Cummings, U.Teichler, C.Musselin, E.Boyer, B.Kehm, J.Brennan, M.Rostan, T.Aarrevaara, E. Balabachevsky, J. Galaz-Fontes, F. Huang, J.Shin, G.Postiglione, 潮木, 山野井らを中心に展開。また、AP の科学社会学的研究が活発化し、J.Ben-David, T.Becher, M.Kogan, S.Parry らが主導。1960 年代から AP 研究に着手した代表者は、同様の研究を行った(巻末の業績参照)。

本研究は特に②期に加え③期の CAP-STEM 型 AP(通称 APIKS) の国際比較研究と並行し、新たに④期の[ポスト型 AP]を模索する点で世界的な独創性と価値がある。

2. 研究の目的

本研究の目的と研究方法は、大学教授職 = academic profession (以下 AP と略)に関する約 30 年間の国際比較研究を基本的には踏襲する。すなわち、CAP-STEM 型 AP(CAP 型と STEM 型の連携：通称 APIKS [ACADEMIC PROFESSION IN THE KNOWLEDGE-BASED SOCIETY]); STEM は Science, Technology, Engineering, Mathematics の理系分野の略称。)の全体像に関する知見を基礎に、新たな研究課題「ポスト CAP-STEM 型 AP」(以下、「ポスト型 AP」と略)を究明する。

具体的には、カーネギー調査(1992)、それを踏襲した CAP 調査(2007)[19 カ国:米,英,独,蘭,伊,ポルトガル,フィンランド,ノルウェー,加,メキシコ,ブラジル,アルゼンチン,豪,韓,香港,中,マレーシア,南ア,日 の 18 カ国 1 地域],それを踏襲した STEM 調査(APIKS)(2017~)[CAP 参加国を基盤に世界 35 カ国参加中]から得た成果を基礎にして知識基盤社会のポスト型 AP を追究する。

ポスト型 AP の研究課題は、現在遂行中の CAP-STEM 型 AP で分析した調査内容(プロフィール,アクセス,学術活動,労働条件,ガバナンス,管理運営,産学連携,アカデミック・キャリア,大学院生,ポストドクトラルなど)の発展的補完的追究を目指す。すなわち大学院生やポストドクを中心に AP の予期的社会化や学問的社会的な持続的に追求するのに加え、新たに、ポスト型 AP の理念、2 つの R-T-S ネクサスの制度化、学問生産性 = academic productivity の現状と課題を内外の質問紙調査と訪問調査に依拠して、国際比較の視点から解明を試みる。

3. 研究の方法

理論研究,文献・資料収集,国内外質問紙作成・訪問調査,質問紙調査・データ処理,研究会(合同)・国際セミナー(合同),成果公表等を行う。その作業工程は以下のとおりである。

表1 主な作業日程：R2年度～R5年度

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
CAP-STEM型AP (通称APIKS)	研究会	国外訪問	研究会、国外訪問	国際セミナー、 総括
大学院・ポストドク	研究会	国内訪問	研究会、国内訪問	国際セミナー、 総括
ポスト型AP	研究会、国内外 質問紙作成	国内外質問紙調 査・訪問	研究会、国外訪問、 国内訪問	国際セミナー、 総括
R-T-Sネクサス	研究会、国内質 問紙作成	調査、研究会	国内訪問	研究会、総括
文理融合AP像	研究会、国内質 問紙作成	調査、研究会	国内訪問	研究会、総括

(注)作業日程は、CAP-STEM型AP(大学院・ポストドク含む)は継続研究とそれを踏まえたポスト型AP(R-T-Sネクサス、文理融合AP含む)の研究の作業日程を示す。研究会は合同開催する場合を含む。

4. 研究成果

(1)2020 年度、大学の管理運営と大学教員の社会サービスを対象に研究を進めてきた。

大学の管理運営について以下の2点が明らかになった。1992年、2007年、2017年の日本の大学において、適切なリーダーシップが発揮されているかどうか大学教員に質問したところ、適切なリーダーシップが発揮されている、との比率が年を経るにつれて低くなっていた。その背景を知るために、2017年のデータにおいて、「大学において適切なリーダーシップが発揮されている」と有意な相関関係を持つ変数を確認したところ、「管理者と教員との間に望ましいコミュニケーションが行われている」「大学では同僚制に基づく意思決定が行われている」「大学では機関の使命が強調されている」等であった。回答者の、性、年齢、専門分野、雇用形態、職位、所属大学の種類、などは大学において適切なリーダーシップが発揮されている、と回答傾向と有意な関係が確認されなかった。

大学教員の社会サービス活動時間数について以下ことが明らかになった。

大学教員の社会サービス活動時間の規定要因を実証的に確認したところ、性、年代、最高学位、雇用状況、「医学・健康科学系」「教育活動時間数」「研究活動時間数」「管理運営活動時間数」、管理運営様式、が社会サービス活動時間数を有意に規定している。

男性は女性よりも、50歳代以上のシニアの大学教員が、「社会科学系」「農学系」「医学・健康科学系」の教員が、大学の運営が「リーダーシップが発揮されている」「機関の使命を非常に重視しているほど」「同僚制で意思決定をしている」と回答した大学教員ほど、社会サービス活動時間数は長くなっていた。

逆に、「教育活動時間数」「研究活動時間数」「管理運営活動時間数」が長いほど、「トップダウン型の管理運営を行っている」と回答している大学教員ほど、社会サービス活動時間数は短くなっていた。

(2)世界の諸専門分野を担う大学教授職 (Academic professions) は、知識に対してどのように意識して、専門的活動を実施しているのか、それらの意識や専門的活動は時系列にみてどのように変化しているのか、それらの意識や専門的活動は大学教授職の背景(性、年齢、所属組織の種類、学位取得国、専門分野、所属国)によってどのように規定されているのか、を明らかにした。

8カ国(アルゼンチン、カナダ、フィンランド、ドイツ、日本、韓国、マレーシア、ポルトガル)について、「教育活動の中に実践志向の知識や技能が強調されている。」が当てはまるとする大学教員比率は、2017年が2008年よりも危険率0.1%において有意に高くなっている。専門分野別にみると、人文科学系、社会科学系、生命科学系、物理学系において有意に低くなっており、国別にみると、日本とドイツでは有意に低くなっており、マレーシアにおいて有意に増加している。

教育方法について、「PBL(問題解決型授業)」と「遠隔教育」は2017年のほうが2008年に比べて実施率が危険率0.1%で有意に高くなっていた。「個人指導」をはじめ、その他の教育方法は、2008年のほうが2017年に比べて実施率が危険率0.1%において有意に高くなっていた。

研究成果の特徴が、自身の研究に当てはまっている比率の高い順に、「応用・実践志向の研究」「基礎・理論研究」「1つの専門分野に基づく研究」「学際的研究」となっている。「社会志向・社会改善を目的とする研究」と「学際的研究」は、2017年のほうが2008年に比べて当てはまるとする大学教員比率が危険率0.1%において有意に高くなっている。「1つの専門分野に基づく研究」については2017年のほうが2008年に比べて当てはまるとする大学教員比率が危険率0.1%において有意に低くなっていた。

(3)大学教員、学部長、企業管理職員、地方自治体管理職員はそれぞれ大学・大学教員にどのような期待を抱いているかを明らかにするために、『変貌する社会における大学・大学教員の将来像に関する調査』を実施した。その結果、以下の6点が明らかになった。

大学教員は教育活動及び研究活動のどちらに関心をおくべきかについて質問したところ、学部長は教育活動に、大学教員は研究活動に、関心を置くべきと主張していた。

学部生に身に付けさせる必要のある知識・技能・態度について質問したところ、必要度の高い順に、「論理的思考力」「問題解決力」「創造的思考力」となっており、職業別にみると、自治体管理職員は「チームワーク、リーダーシップ」を、学部長は「市民としての社会的責任」「倫理観」を強く必要としていた。

大学教員が授業を行う際の力点については、必要度の高い順に、「確実に学問の基礎を教える」「学生の成長にきっかけを与える」となっていた。職業別にみると、自治体管理職員と会社管理職員は「最先端の研究成果に触れさせる」を強調していた。

大学教員が研究活動を行う時に誰の意見を反映させる必要があるか質問したところ、必要度の高い順に、「学外の大学関係者」「同僚の大学教員」「企業」となっていた。職業別にみると、

大学教員は「他人の意見を反映させる必要はない」、会社管理者は「企業」、自治体管理者は「地方自治体」との意見が強くなっていた。

大学教員が社会サービス活動を行うことの必要性について質問したところ、特に、学部長と自治体管理職員が強い必要性を示していた。

大学や大学教員の国際交流について質問したところ、賛成度の高い順に、「大学は、日本人教員の海外派遣を促進すべき」「大学教員は外国の書物や雑誌を読むべき」「大学や大学教員は日本人学生の留学を促進すべき」「大学や大学教員は諸外国の学生や教師との交流を促進するべき」となっていた。

(4)大学教授職にとって研究生産性が高いことは、自身のキャリアばかりではなく、社会への貢献という面から重要なことである。そこで、研究生産性の高い大学教員の特徴について検討した。

その結果、研究生産性の高い大学教員の特徴は、男性（若手教員ほどその影響が強い）、専門がSTEM分野、博士号を若くして取得している（若手教員ほどその傾向が強い）、研究大学に所属している（高齢教員ほどその傾向が強い）、職位が教授・准教授（ミドル教員で最もよく当てはまる）、有期雇用（若手教員ほどその傾向が強い）、高額な交付研究費の取得（高齢教員ほどその影響力が強い）、研究活動時間数（若手教員ほどその傾向が強い）、共同研究者がいる（高齢教員ほどその影響力が強い）、国際的視野や指向性の研究を進めている（ミドル教員で最もよく当てはまる）であった。

順序ロジスティック回帰分析を用いて、研究生産性の高い大学教授職の特徴を確認した。「男性」「研究大学」「教授・准教授」「高額な交付研究費額」「研究時間数」「博士学生と共同研究を行っている」「外国人研究者と共同研究を行っている」が危険率5%において研究生産性を有意に規定していた。そのうち、「博士学生との共同研究」と「外国人研究者との共同研究」は危険率0.1%において有意に研究生産性を規定していた。

年代別に研究生産性を有意に規定している変数を確認した。39歳以下の教員では、「STEM分野」「企業・民間部門での労働経験有り」「外国人研究者と共同研究を行っている」が危険率5%において有意に研究生産性を規定していた。40～54歳の教員では、「男性」「交付研究費額」「外国人研究者との共同研究」が危険率5%において有意に研究生産性を規定していた。55歳以上の教員では、「博士学生との共同研究」「異分野研究者との共同研究」が危険率5%において有意に研究生産性を規定していた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 有本 章	4. 巻 19
2. 論文標題 日本の大学教育の現状と課題：大学教員の教育力とR-T-Sネクサス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 有本 章	4. 巻 5
2. 論文標題 大学教育の現状と課題 新型コロナウイルス禍との関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 兵庫高等教育研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 有本 章	4. 巻 5
2. 論文標題 学問中心地に関する研究 アジアの研究大学を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 兵庫高等教育研究	6. 最初と最後の頁 89-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Huang Futao, Daizen Tsukasa, Kim Yangson	4. 巻 45
2. 論文標題 Changes in Japanese universities governance arrangements 1992-2017	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Higher Education	6. 最初と最後の頁 2063 ~ 2072
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/03075079.2020.1823642	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Gu Jianmin、Feng Shujin、Huang Futao	4. 巻 45
2. 論文標題 How do Chinese faculty members and administrative staff participate in governance arrangements?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Higher Education	6. 最初と最後の頁 2082 ~ 2091
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03075079.2020.1823644	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Futao、Welch Anthony	4. 巻 45
2. 論文標題 Introduction	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Higher Education	6. 最初と最後の頁 2033 ~ 2035
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03075079.2020.1823649	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimauchi Sae、Kim Yangson	4. 巻 33
2. 論文標題 The Influence of Internationalization Policy on Master 's Education in Japan: A Comparison of "Super Global " and Mass-Market Universities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Higher Education Policy	6. 最初と最後の頁 689 ~ 709
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1057/s41307-020-00204-y	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Futao	4. 巻 75
2. 論文標題 Challenges to the Asian academic profession: Major findings from the international surveys	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Higher Education Quarterly	6. 最初と最後の頁 438 ~ 452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hequ.12296	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kim Yangson, Kim SeungJung	4. 巻 81
2. 論文標題 Being an academic: how junior female academics in Korea survive in the neoliberal context of a patriarchal society	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Higher Education	6. 最初と最後の頁 1311 ~ 1328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10734-020-00613-3	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有本章	4. 巻 6
2. 論文標題 格差社会と大学格差の社会病理 日本症候群の一断面	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 兵庫高等教育研究	6. 最初と最後の頁 95-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有本章	4. 巻 6
2. 論文標題 学修者本位の大学 国家政策の推移と大学人の対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 兵庫高等教育研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kim Yangson	4. 巻 18
2. 論文標題 The institutionalization of neoliberal ideas in the management and evaluation of higher education in Korea and Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Higher Education Forum	6. 最初と最後の頁 47-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Futao, Daizen Tsukasa, Chen Lilan, Horiuchi Kiyomi	4. 巻 83
2. 論文標題 Japan's higher education and the public good	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Higher Education	6. 最初と最後の頁 1297 ~ 1314
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10734-021-00743-2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Futao	4. 巻 76
2. 論文標題 Impacts of the COVID pandemic on international faculty's academic activities and life in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Higher Education Quarterly	6. 最初と最後の頁 260 ~ 275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hequ.12369	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Futao, Chen Lilan	4. 巻 4
2. 論文標題 Chinese Faculty Members at Japanese Universities: Who Are They and Why Do They Work in Japan?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ECNU Review of Education	6. 最初と最後の頁 743 ~ 763
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2096531120985877	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有本 章	4. 巻 7
2. 論文標題 研究と教育の両立 日本の大学での困難性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 兵庫高等教育研究	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有本章	4. 巻 7
2. 論文標題 知識社会における大学教授職の将来像 学識経験者の見解を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 兵庫高等教育研究	6. 最初と最後の頁 83-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Futao, Craciun Daniela, de Wit Hans	4. 巻 76
2. 論文標題 Internationalization of higher education in a post pandemic world: Challenges and responses	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Higher Education Quarterly	6. 最初と最後の頁 203 ~ 212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hequ.12392	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Futao	4. 巻 18
2. 論文標題 Comment on "Japan's Higher Education Policies under Global Challenges"	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Economic Policy Review	6. 最初と最後の頁 238 ~ 239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/aep.12427	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有本章	4. 巻 56
2. 論文標題 大学研究者の履歴 - 一教育社会学者の形成過程の回顧 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学論集	6. 最初と最後の頁 1-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Futao	4. 巻 78
2. 論文標題 Changes in doctoral graduates' employment and doctoral students' views of their future career in Japan in 2012-2018	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Higher Education Quarterly	6. 最初と最後の頁 458 ~ 472
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hequ.12469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Akira Arimoto & Tsukasa Daizen
2. 発表標題 Research on the foreign degree holders: Their attributes and activities
3. 学会等名 4 th APIKS Online Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Futao Huang & Yangson Kim
2. 発表標題 How did Japan's academics view the activities and outcomes of internationalization at their affiliations?
3. 学会等名 4 th APIKS Online Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akira Arimoto
2. 発表標題 Collaboration practices and outcomes: A comparative analysis of academics' international research activities
3. 学会等名 4 th APIKS Online Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有本 章、大膳 司、黄 福涛
2. 発表標題 変容する大学教授職の研究(2) - 大学教員の社会サービス活動を中心として -
3. 学会等名 日本教育社会学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akira Arimoto & Tsukasa Daizen
2. 発表標題 Why does the Japanese academic profession recognize that there is a competent leadership in my institution?
3. 学会等名 3th APIKS Online Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Futao Huang & Yangson Kim
2. 発表標題 University governance and management in Japan and Korea: Main findings from two national surveys in 2017
3. 学会等名 3th APIKS Online Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有本 章、大膳 司、黄 福涛
2. 発表標題 知識基盤社会における大学教授職に関する研究 - 知識をめぐる認識と専門的活動について
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Arimoto Akira, Daizen Tsukasa
2. 発表標題 Classification of the country according to the research hours ratio by age group: Mainly on the background and influence
3. 学会等名 APIKS Conference in Aveiro
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Arimoto Akira
2. 発表標題 The Academic Profession's Conformity to R-T-S nexus in the World and Japan
3. 学会等名 Hon Kong University Research Meeting
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Arimoto Akira, Daizen Tsukasa
2. 発表標題 Classification of the country according to the research hours ratio by age group: Mainly on the background and influence
3. 学会等名 APIKS Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有本 章、大膳 司、黄 福涛
2. 発表標題 変貌する社会における大学・大学教員の将来像に関する研究 - 職業別の同異点を中心として
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有本 章、大膳 司、黄 福涛
2. 発表標題 大学教員の研究生産性の実態とその規定要因の国際比較
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有本 章、大膳司、黄福涛
2. 発表標題 研究生産性の高い大学教員の形成過程と研究環境の世代別分析
3. 学会等名 日本高等教育学会第26 回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Arimoto Akira
2. 発表標題 Characteristics of the Japanese academics in terms of academic employment: From an international comparative study
3. 学会等名 HERA 2023 Conference
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Arimoto Akira and Daizen Tsukasa
2. 発表標題 Differences in perception about the competent leadership by the academic profession: Based on the analysis of Findings of the APIKS Surveys in 2017
3. 学会等名 APIKS Conference Vienna
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Arimoto Akira
2. 発表標題 An International Comparative Study on the Academic Profession in the world
3. 学会等名 APIKS-Conference Hiroshima
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 有本章	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 314
3. 書名 大学教授職の国際比較：世界・アジア・日本	

1. 著者名 Timo Aarrevaara, Arimoto Akira et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 434
3. 書名 Universities in the Knowledge Society; The nexus of National Systems of Innovation and Higher Education	

1. 著者名 Frank N. Pieke, Koichi Iwabuchi, Futao Huang et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of California Press	5. 総ページ数 335
3. 書名 Global East Asia Into the Twenty-First Century	

1. 著者名 有本 章	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 740
3. 書名 学問生産性の本質 大学教授職の日米比較	

1. 著者名 Futao Huang, Timo Aarrevaara, Ulrich Teichler	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 256
3. 書名 Teaching and Research in the Knowledge-Based Society: Historical and Comparative Perspectives	

1. 著者名 Calikoglu, A., Jones, G. A., & Kim Yangson	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 238
3. 書名 Internationalization and the Academic Profession	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 良善 (Kim Yangson) (10802861)	広島大学・高等教育研究開発センター・准教授 (15401)	
研究分担者	大膳 司 (Daizen Tsukasa) (60188464)	広島大学・高等教育研究開発センター・教授 (15401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	黄 福涛 (Huang Futao) (60335693)	広島大学・高等教育研究開発センター・教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関